

アジア金融・経済情勢に関する声明

1998年4月3日 ロンドンにおいて

安定回復に向けた共通の関心

1. 首脳は、アジアにおける最近の金融・経済情勢について議論し、これが世界経済に与える影響を強調し、アジアの人々が被る負担についての懸念を力説した。首脳は、この危機に果敢に対応する必要性を再確認し、金融・経済の安定を推進するために当該アジア諸国が実施しつつある諸改革を歓迎した。首脳は、必要な政策改革の完全実施と強力な相互支援により金融の安定が回復されることへの自信を表明した。経済の基礎条件が強靱であれば、アジアにおけるこれまでの印象的な成長は中期的に継続可能となろう。首脳は、アジアの金融困難解決、並びに、現在の問題の克服に向けとられている多数国間及び二国間の努力への完全参加に欧州側が高い関心を示していることに留意した。首脳は、また、アジアのメンバーが行っている意味のある金融・経済支援に留意した。

国際社会からの支援を伴ったアジアにおける改革

2. 首脳は、グローバルな問題に対するグローバルな対処を行う上で中心となる国際通貨基金（IMF）の役割を更に強化することが重要である点で意見の一致をみた。首脳は、アジア経済及び金融市場への信認を回復する上で枢要な役割を果たす、IMF、世界銀行、アジア開発銀行との間で合意された改革プログラムの完全実施に対する強い支持を表明した。首脳は、当該アジア諸国における調整努力を評価し、慫慂した。首脳は、政策実施が公然と、透明性を伴い、差別なく行われるべきであることを強調した。

3. 首脳は、国際社会が今日まで危機への対応を適時に行ってきたことを歓迎し

た。首脳は、当該アジア諸国支援に向けて、国際金融機関や数々の補完的な二国間金融支援の仕組みにより実施されてきた相当額の財政支援を評価した。首脳は、特に、強力な調整プログラムを支援するため多額のIMF資金が供与されることを支持し、新たなIMF補完的準備融資制度の創設を歓迎した。

国際金融制度の改革と強化

4. 首脳は、危機の予防及び投機により惹起される不安定を含む潜在ショックに対する国内金融システムの脆弱性の低減に焦点を当てつつ、マニラ・フレームワークに含まれている方策を含め国際通貨金融制度を改革し強化しうる数々の方途を検討した。首脳は以下を求めた：

－ IMFが金融困難に対して適時に、かつ断固とした対応を取れるようなIMFの機能強化、増資並びに新規借入取決め（NAB）の早期批准を通じたIMF資金の拡充。

－ アジアに新たに設立された地域サーベイランス・メカニズムによって補完される、より強化されかつ透明性を増した世界的なIMFサーベイランス。

－ 金融分野における協力と規制と監督の強化、並びにIMFやその他の国際的な規制当局が、短期資本フロー監視の可能性を含め、金融市場及び資本市場における透明性改善のための方策を検討。

民間セクターの参画

5. 首脳は、民間セクターが、公共部門のアプローチを支援しつつ、公共部門と協力しながら、必要かつ適切な場合に財政支援に参画することを確保するための戦略を工夫する重要性を強調した。首脳は、特に、債務者／債権者会合を成功させ、また、各国において貿易信用が供与されるようにする上で、民間セクターの

